－ 日本赤十字看護大学 －

医療と文化

2014/1/8

井 上 陽 介

授業のアウトライン

Module 1

健康・病気の捉え方（第2回–5回）

栄養失調・肥満／痛み／
精神疾患・ストレス／出産・授乳

Module 2

治療・健康追求行動のあり方（第6–9回）

経口補液療法／予防接種／外科手術・臓器移植／
呪術・伝統医療／ネット上の医療情報／プラセボ効果

Module 3

健康決定要因としての文化（第10–13回）

感染症（HIV/AIDS、マラリアなど）／心血管疾患・糖尿病
／移民と健康／経済発展と健康

今日のテーマ

移民の健康と文化

Salgado / Church Gate Station. Bombay, India. 1995

今日のテーマ

Section 1

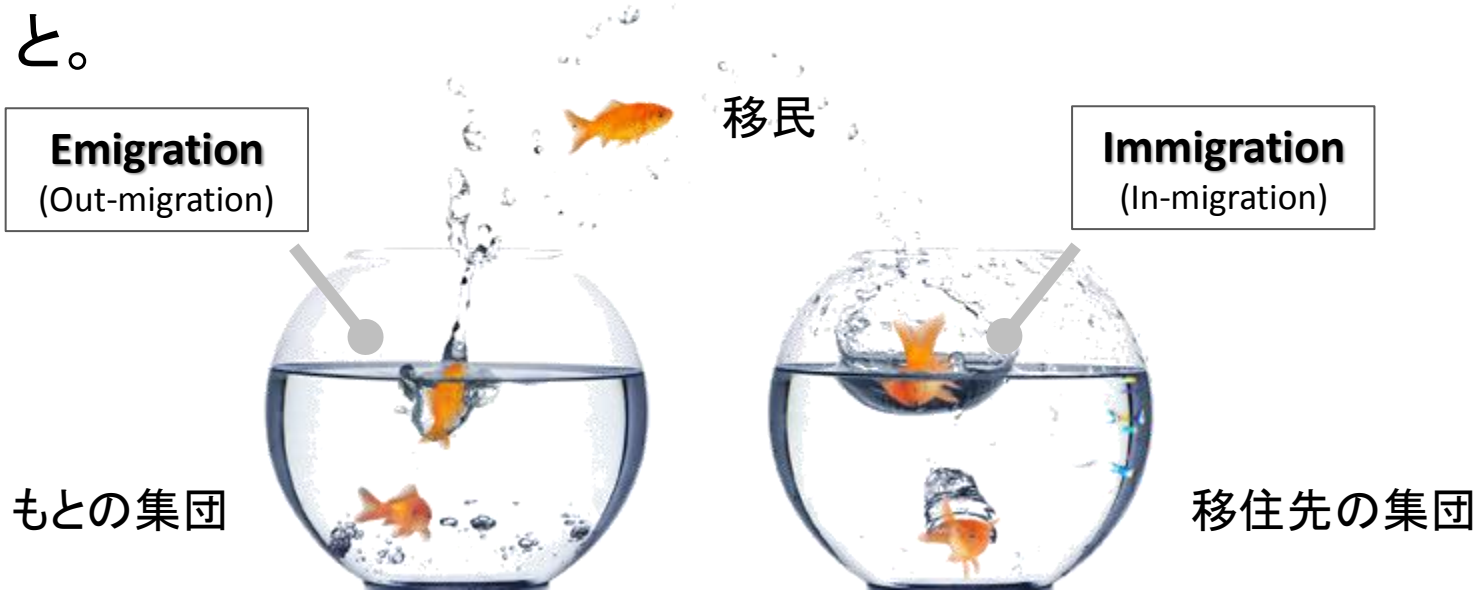
- 移住の概要 (esp. Rural-to-Urban)
- 都市で暮らすことの意味
- 移住者の健康の評価方法－２つのキーワード
  - Selectivity（選択的）
  - Acculturation（文化変容）

Section 2

- World Migration Survey 2013 （世界移住報告2013）

定義

- 移住
  - 他の居住地に人が移動すること。
  - ある人口集団（population）から他の人口集団に移ること。



https://www.icinga.org/nagios/upgrade-from-nagios/

移民の分類（１）

#nisseki13

- 動機別に分類した移住
  - 強制的な移住:
    - 戦争
    - 政治的な紛争
    - 自然災害
  - 自発的な移住:
    - 経済的事由：同様の労働に対して国・地域によって稼ぐことのできる金額に大きな差が存在する。
    - 先進国で人材が不足している業界は移住しやすい。

★具体例を考えてみる！

移民の分類（２）

- 移住先の場所による分類
  - 国際移動
  - 国内移動
    1. 近隣（例：季節労働者）
    2. 農村から都市
       - 都市化・産業化に伴い生じる。
       - 近年は途上国でさかん。
    3. 都市から農村
       - 先進国で近年みられる。
       - 高コストな都市での生活を避け農村に移住。

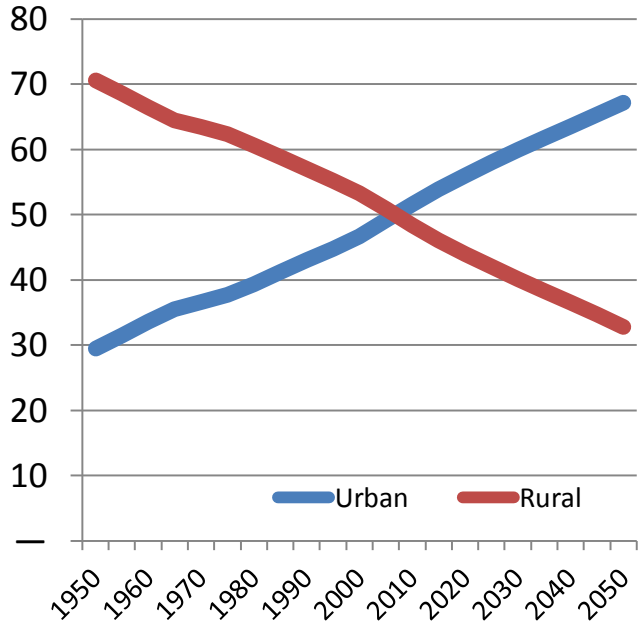
移住に関するデータ

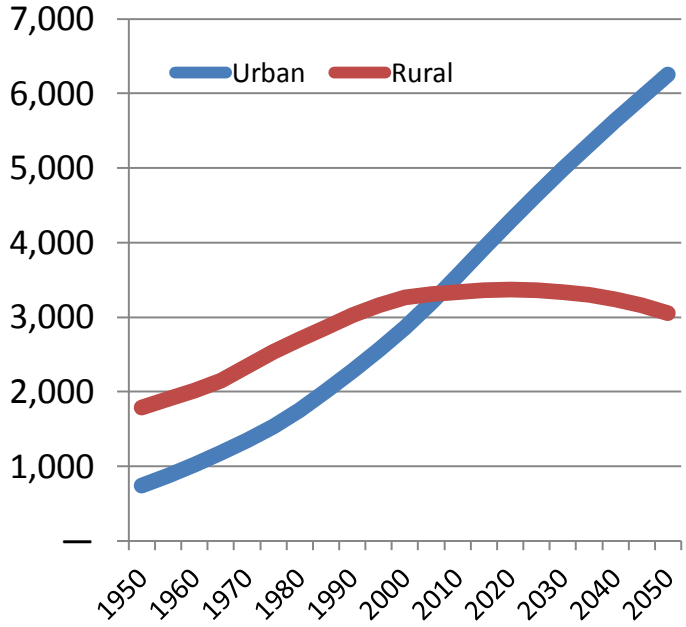
- 国際移住
  - 2.14億人／2010年　国際移住機関（IOM）
    - 世界人口の約3%
  - 4.05億人／2050年［推計値］

- 国内移動 (特に、農村から都市への移住)
  - 都市化
    - 農村から都市へ移住する人が増加することで都市部が物理的にも大きくなっている。
  - 都市人口 ＞ 農村人口

都市化の歴史（１）

- 都市人口が占める割合
  - 1900年: 13% (2.2億)
  - 2005年: 49% (32億人)
  - 1950年: 29% (7.32億人)
  - 2030年: 60% (49億人)





都市化の歴史（２）

- 2007年の途中、都市人口が農村人口をはじめて超過。
  - 93%：途上国での増加
  - 80%：アフリカとアジアでの増加

- 都市人口が増加した3つの要因
  - 都市人口の自然増加
  - 都市の行政区域が変わること
  - <u>移住</u>
    - 都市は産業の中心であり、農村から人を引き付ける。同時に、農村の人に依存している！

都市化の歴史（３）

- より多くの人が都市に移住することで都市は拡大した。
  - 19世紀後半のシカゴ
  - 20世紀中盤の東京
  - 21世紀のムンバイ

農村から都市へ
移住して起こった
都市化の例

- 影響する要因
  - 経済的なチャンス
  - 農地の悪化
  - 都市で利用可能なレジャーの機会
  - 輸送機関の利用可能性
  - 個人主義を追求できる可能性

中国の移民 – プッシュ要因／プル要因

Push factors

経済
- 作物の不作
- 収入の不安定さ
- 余剰労働、失業

社会
- 差別
- 伝統的な生活スタイルへの不満

環境
- 居住地の徴用
- 干ばつ、洪水、その他
- 資源の枯渇
- 農地がなくなる

Pull factors

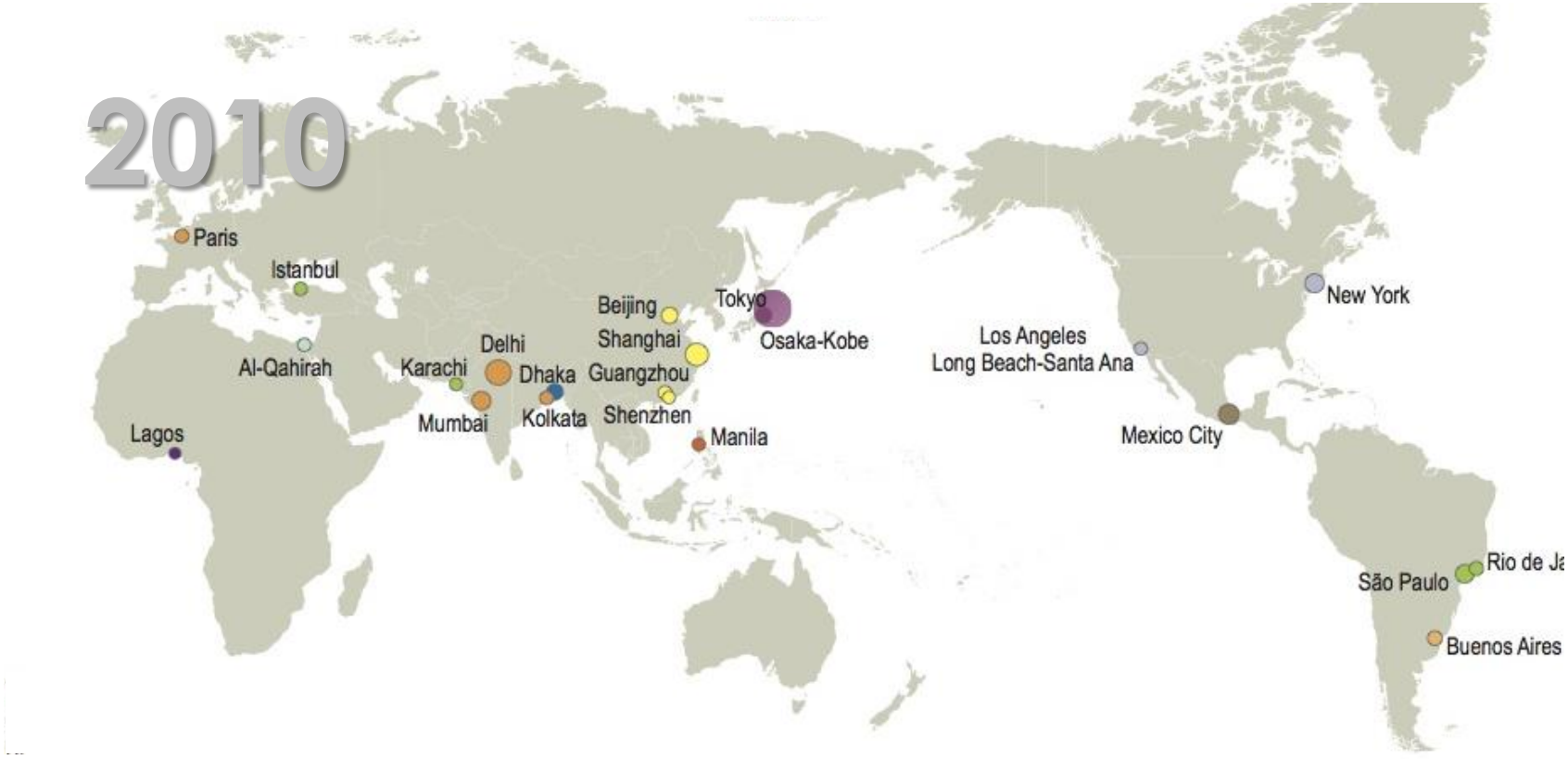
経済
- より高い賃金・仕送りの見込み
- 就業機会
- よりより居住環境
- 保健サービス

社会
- 結婚の見込み
- 教育チャンス
- 親類の存在

環境
- 資源の発掘

(Peng et al., 2012 Lancet)

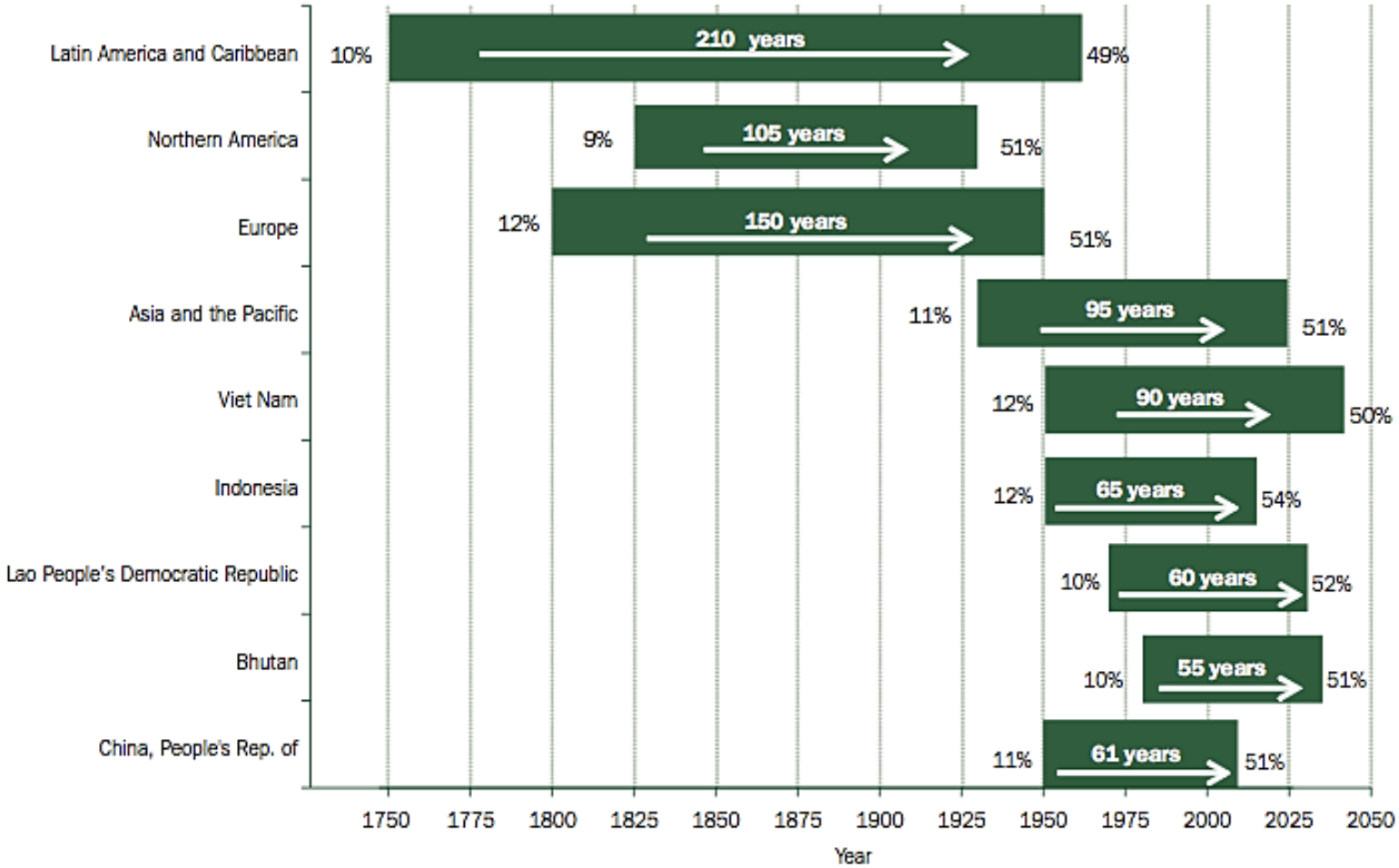
都市は拡大できるか？



はたして都市は移住者を受け入れ続けられるのか？

http://www.forbes.com/sites/davidferris/2012/08/31/the-stark-environmental-challenge-of-asias-megacities/

急速な都市化



http://blogs-images.forbes.com/davidferris/files/2012/08/Pace-of-Urbanization.png

都市化と価値観

- 都市化とは単に都市人口が多くなるということだけではなく、人びとの社会的な基盤が大きく変わるということを意味する！
  - 農村の文化が急速に都市の文化によって変わられる。
    - 農村の文化：血縁関係、親しい人間関係、共同作業
    - 都市の文化：うすい血縁関係、互いに知らない疎遠な人間関係、競争社会

都市化によって、人々の人間関係、
受け取る情報が変わり、
結果として人々の価値観も変わってきている。

都市の歴史（１）

16世紀後半

- 現在のような都市が存在するようになる。

- ロンドン
  - 農村からの移住者が大量に増加した結果、人口密度がとても高くなった。
  - 市内の感染症による死亡が多かったため、ロンドンは人口を保持するために年間5000人の移民を受け入れ続けないとならなかった(McNeill, 1979)。

都市の歴史（２）

1750年まで

- 感染症による都市部における死亡が減少
  - 宿主と病原体が生物学的に適応したこと
  - 衛生、水処理など公衆衛生学的なアプローチが効果発揮 (Dubo, 1965)

- 都市人口は農村部からの流入を必要としなくなったが、農村部からの移民が減少するということはなかった。
  - 小作農と農場主：農村部の人々を都市部に移住させた。

都市の歴史（３）

1750年から1950年

- 農村から都市への移住の多くは先進国で起こった。
- 国際移民も増加。
  - ヨーロッパ社会からアメリカなど。

- 1950年
  - 先進国の人口の53%が都市人口。
  - 途上国の人口の16.7%が都市人口。

都市の環境（１）

- 都市の特徴
  - 大きな人口
  - 高い人口密度
  - 人口流入率の高さ

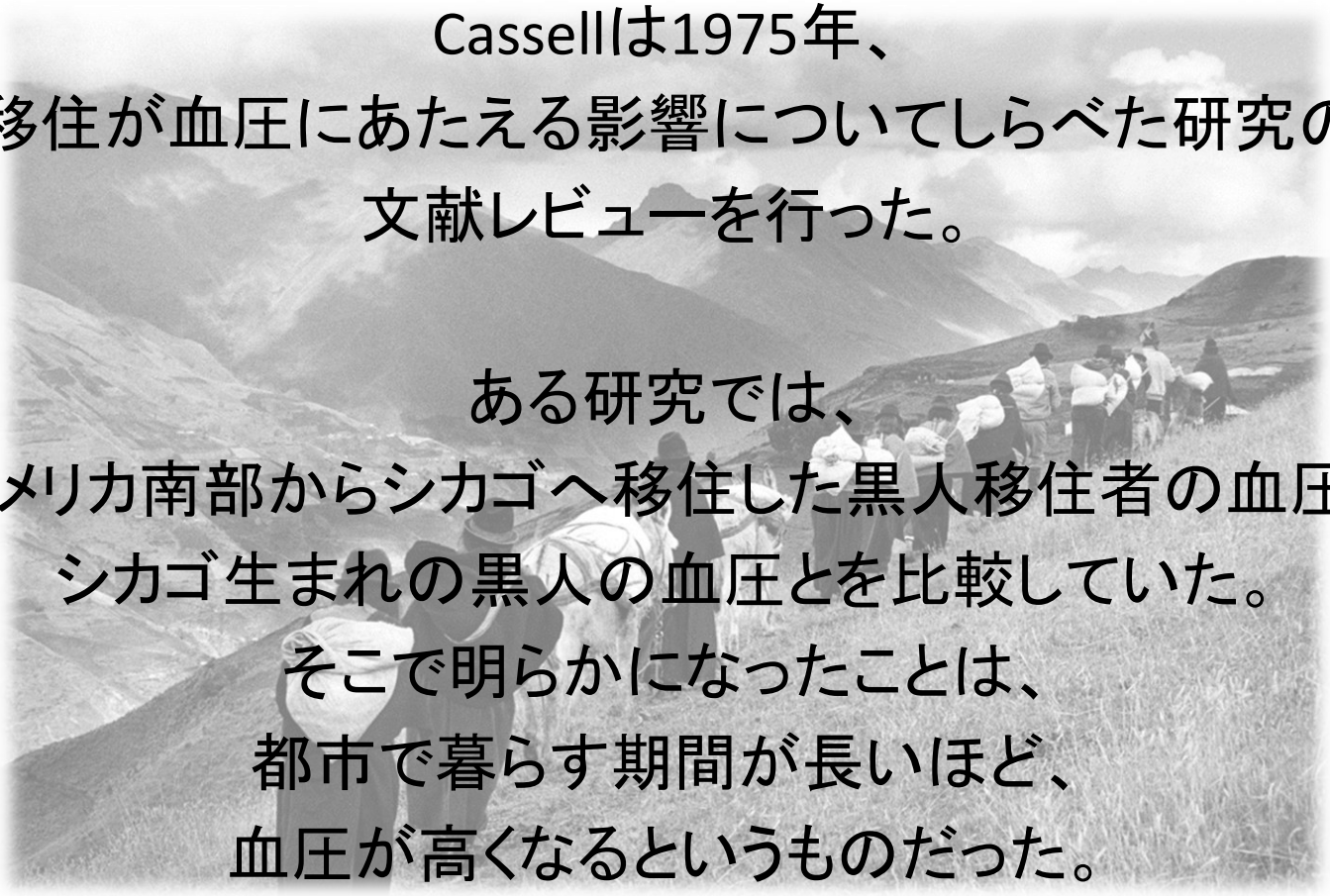
- 人間にとっての問題
  - 水供給、汚染、廃棄物処理に関する技術的問題
  - 疾病（感染症・非感染症）
  - 貧困の社会経済的な問題：失業
  - 社会的争い／他者との比較（Social Comparison Theory）

都市の環境（２）

- 移住者は都市環境の問題の影響を受けやすい。
  - 「新参者」は誰もやりたがらない仕事につきやすい
    - ハイリスクな仕事（建設作業場、化学物質の工場）
  - 経済状況に余裕がないので居住環境も劣悪なものになりやすい。（人口密度が高い／非衛生的／安全でない）
  - 言語、文化、法律などの諸要因によって、移住者は移住先の社会の周縁部に位置づけられてしまう。
  - 健康サービスを十分に使うことが出来ない。

ケース　移民の血圧

ケース　移民の血圧



Cassellは1975年、
移住が血圧にあたえる影響についてしらべた研究の
文献レビューを行った。

ある研究では、
アメリカ南部からシカゴへ移住した黒人移住者の血圧と
シカゴ生まれの黒人の血圧とを比較していた。
そこで明らかになったことは、
都市で暮らす期間が長いほど、
血圧が高くなるというものだった。

ケース　移民の血圧

また他の研究では、
西アフリカの沖合に位置するCape Verde島の住民の血圧と
アメリカ東部に移住したCape Verde人の血圧とを比較した。
結果、どの年代でも移民の血圧は島の住民よりも高く、
さらに若者と老人の血圧差は移民の方でより大きかった。

他の研究では、
アメリカへのアイルランド移民の高血圧の割合（32%）が
アイルランド人における高血圧の割合（21%）よりも
高いことが明らかになった。

ケース　移民の血圧

#nisseki13

ケース　移民の血圧

Cassellの見解

- カロリー摂取や身体活動、塩分摂取などの身体的要因
- 出身地で体力消耗、貧血、血圧低下を起こす寄生虫や病気が移住先にないこと
- 心理的要因
  - 特にこれまで慣れ親しんでいた価値観が移住先で通用しないこと

ケース　ロシア系移民とポーランド系移民

ケース　ロシア系移民とポーランド系移民

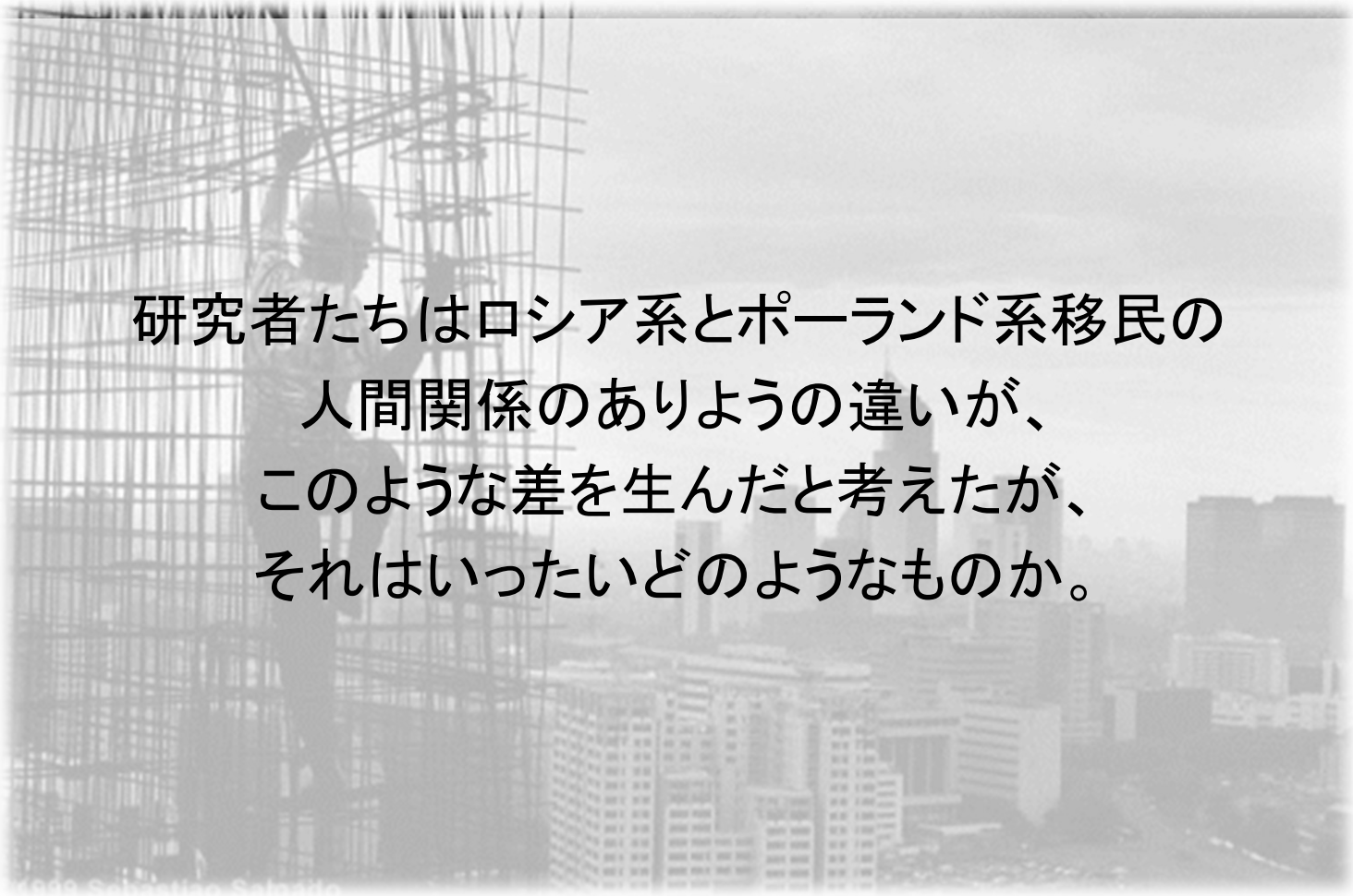
1980年、HitchとRackは
ブラッドフォードにおける精神科病院への初診率を研究した。
具体的にはブラッドフォードに在住の
ポーランド系・ロシア系移民の精神疾患の割合を調べた。

結果、外国生まれの人々の精神疾患の割合が
イギリス生まれの人よりも相当に高いことを明らかにした。

同時に、ポーランド人がロシア人よりも多く精神疾患を抱えていることが分かった。もっとも精神疾患にかかりやすかったのは
ポーランド人の女性であった。

ケース　ロシア系移民とポーランド系移民

#nisseki13



研究者たちはロシア系とポーランド系移民の
人間関係のありようの違いが、
このような差を生んだと考えたが、
それはいったいどのようなものか。

ケース　ロシア系移民とポーランド系移民

ポーランド人があまり結束しないのに対して、ロシア人（多くはウクライナ系）が国や民族への強い帰属意識を持っていることに部分的にはよるのではないかと考えた。

同じ民族どうしのソーシャルサポートは環境ストレスに対して彼らを守るだけではなく、彼らにアイデンティティを授けるもので、ポーランド人よりロシア人の方がこのアイデンティティを保っているようであった。

ケース　移民の自殺未遂

ケース　移民の自殺未遂

Burkeは1976年に発表した3つの研究の中で、
バーミンガムのアイルランド系、アジア系、西インド系の移民の
自殺未遂率について調査した。

調査の結果、移民は彼らの出身地にいる人々よりも
自殺未遂率が高いことが分かった。
これは特に女性の移民にみられた傾向であった。

バーミンガムでは北アイルランドやアイルランド共和国生まれの
移民の自殺率は、エディンバラで調査した現地の人々と比較し
て30%も高かった。

ケース　移民の自殺未遂

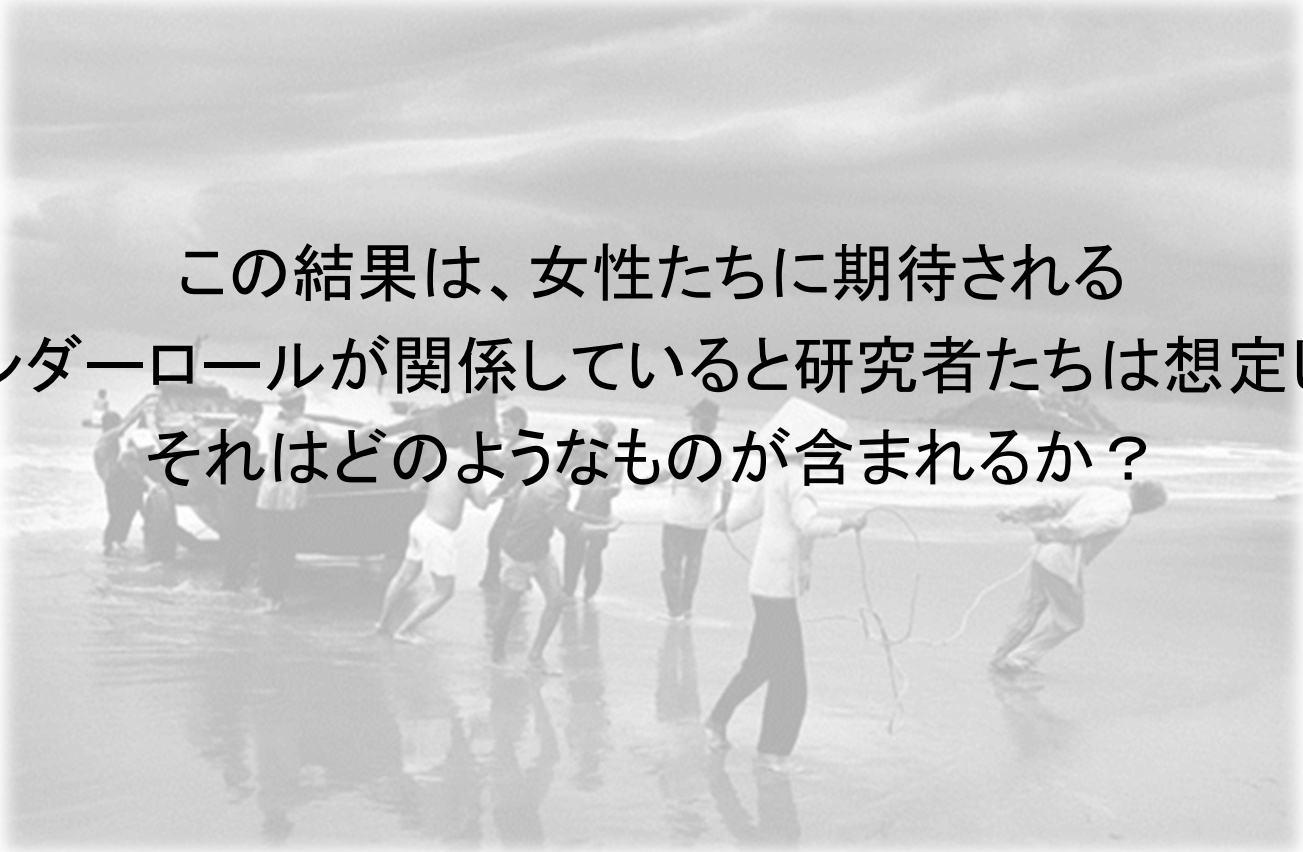
バーミンガムでは
北アイルランドやアイルランド共和国生まれの移民の自殺率は、
エディンバラで調査した現地の人々と比較して30%も高かった。

アジア系移民（インド、パキスタン、バングラディシュ）は
バーミンガム生まれの人々よりも
自殺未遂率は低かったものの、
出身地における自殺未遂率よりは高い値を示した。

特に女性にその傾向が強く認められた。

ケース　移民の自殺未遂

#nisseki13



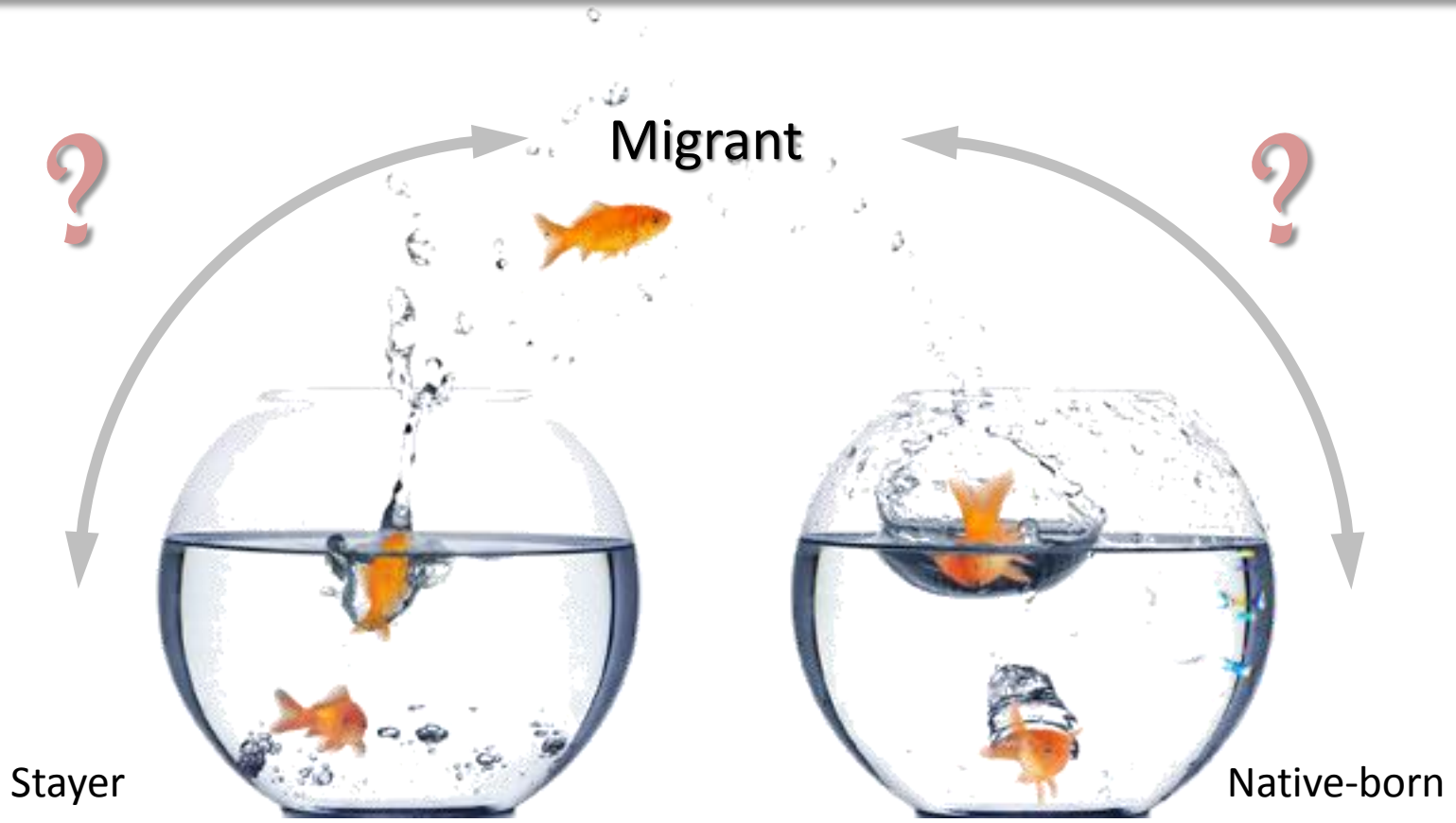
この結果は、女性たちに期待される
ジェンダーロールが関係していると研究者たちは想定した。
それはどのようなものが含まれるか？

ケース　移民の自殺未遂

女性は家にいることをしばしば求められる。

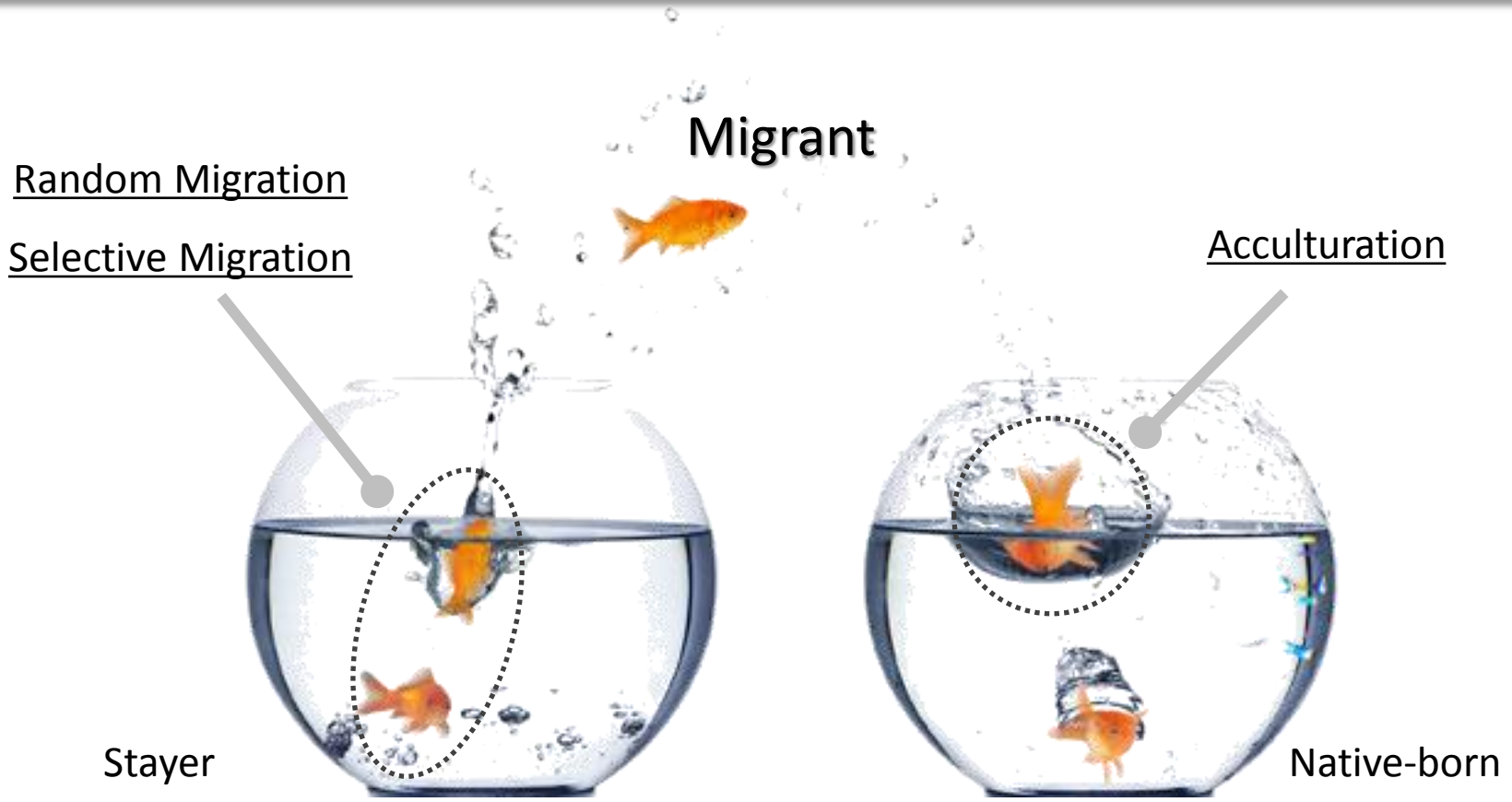
- 言語的の問題：アジア人男性の多くは配偶者よりも数年早く移住し、言語を学んだりイギリスの文化に馴染んだりする機会が多くある

移住者の健康を評価する



https://www.icinga.org/nagios/upgrade-from-nagios/

移住者の健康を評価する



https://www.icinga.org/nagios/upgrade-from-nagios/

移住者の健康の軌跡（１）

Selectivity (Healthy migrant phenomena)

- 移住した当初、移住先コミュニティで生まれ育った人よりも、社会経済状況が劣悪であるにもかかわらず、移住者の方が健康である現象

理由

1. 健康な人が移住している。

   (Frisbie et al., 2001, Jasso et al., 2004 and McDonald and Kennedy, 2004)

2. 移住者のなかには健康状況を報告しないものがいる。

   (Fennelly, 2007 and McDonald and Kennedy, 2004)

3. 病気になった時に移住者は故郷に戻ってしまう

   (Fong, 2008 and Jasso et al., 2004)

移住者の健康の軌跡（２）

Acculturation（文化変容）

- 移住先での生活の年数が長くなるにつれて、移住者の健康が次第に悪化していくということ。

<u>理由</u>

1.生活スタイル >> 身体的健康への影響

– 西洋的なライフスタイルの受容

(Salanta & Lauderdale, 2003)

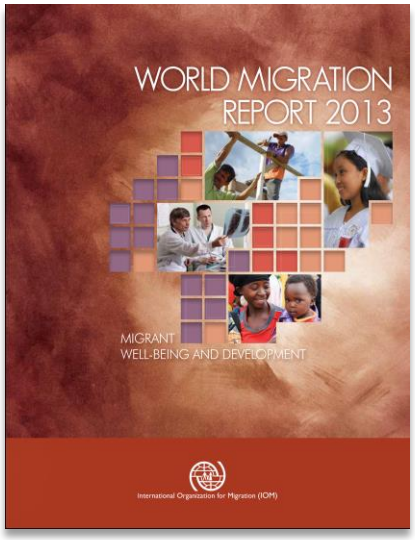
2.文化変容に伴うストレス >> 心理的健康への影響

– 長くいると異文化に慣れる？　（△）

– 長くいるとどんどんストレスがたまる？　（〇）

World Migration Report

- World Migration Report 2013
  - Migrant Well-being and Development
  - 国際移住機関による報告書（7本目）



  - Gallup World Poll
    - 2009年から2011年に150以上の国で実施
    - 25000人の移住者を含む40万人以上の対象者
      - New comers 5年未満; Long-term 5年以上

ウェルビーイングに焦点

- ホリスティックなアプローチ

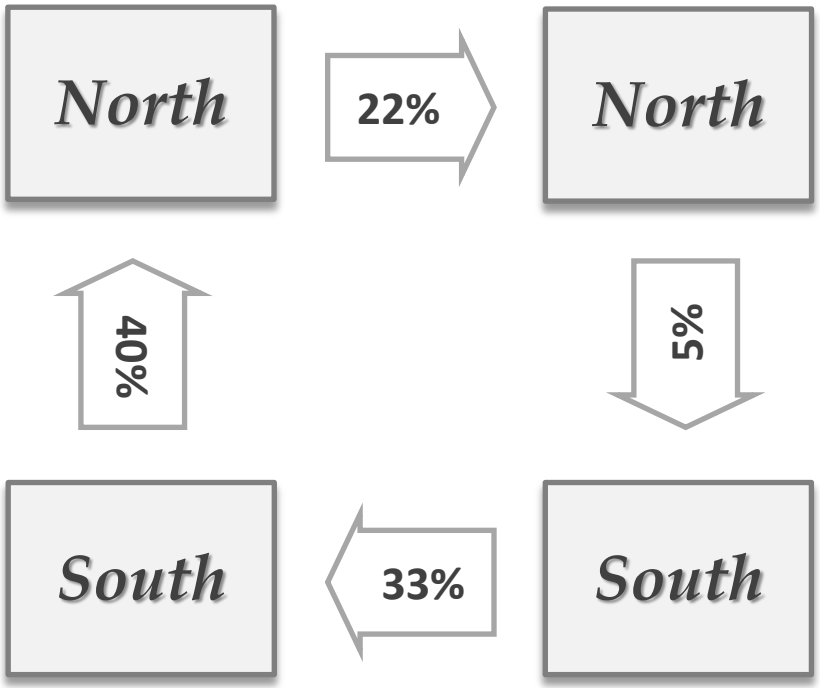
- What we measure affects what we do… The time is ripe for our measurement system to shift emphasis from measuring economic production to measuring people's well-being.

  – *Joseph Stiglitz, Amartya Sen and Jean-Paul Fitoussi, 2010*

- We need to put the notion of well-being and sustainability at the core of the reflections about the future shape of the global development framework beyond 2015.

  – *United Nations General Assembly, 2012*

移住の4パターン



- 国際移住の多くは途上国から先進国か、途上国のなかで起こっている。
- 過去20年で途上国から先進国への移住はもっとも増加した。
- しかしながら数としたら、国際移住全体の半分にも満たない。

国際移住の概要

- 国際移住者の多くは先進国に暮らしている（56%）。先進国においては人口の約10－12%を移住者が占めているが、途上国に関していうとわずか2%を占めているに過ぎない。

- 国際移住者の多くは男性であるが、例外は先進国から先進国に移住するケースで、この場合は女性が多数派である。

- 移住は「途上国から先進国の人の流れ」という単純なものではなく、さまざまなバリエーションがあるので、検討する際は要注意！

移住者と移住先の出身者

- 多くの移住者のWell-beingが移住先の出身者に比べて悪い傾向にあった。

- しかし結果は先進国の移住者と途上国に暮らす移住者内容が異なった。
  - 先進国: 高い失業率、低収入
  - 途上国：健康問題、国家への期待のなさ、治安の悪さ

- 滞在期間が長いほど悪い影響が顕在化。

移住者と非移住者

- 先進国に暮らす移住者は移住しなかった場合に比べて
  - Well-beingが増加。
  - 財政的により豊かになる。
  - 健康状態と健康サービスに満足する。

- 途上国に暮らす移住者は移住しなかった場合に比べて
  - Well-beingが低下。
  - 十分な居住環境を得るのに苦労する
  - 健康状態と健康サービスが悪くなる。